

シリーズ 三郷学

〈三郷学の視点⑦〉

三郷学の視点

5. つなぐ(交流の創出と推進組織)

市では、「多分野」「多世代」の市民・団体・企業・市などをつなぐ、新たな交流の場(拠点)を整備しています。ここでは、多くの人々の交流をとおし市民の力が引き出され、地域力の向上につながります。そして、まちのにぎわいが創出されます。

市民のみなさんのご意見やご要望に対してスピード感を持って対応し、総合的、多角的な視点に立って施策を推進するため、昨年4月に「にぎわい拠点準備室」を設置しました。

現在、準備室では、三郷中央地区内のおどり公園隣接地の公共公益施設計画の策定、三郷インターA地区内公益施設計画の総合調整、国土交通省が江戸川に整

備した三郷緊急用船着場の活用による江戸川交流拠点の形成に向けた取り組みを行っています。

～ハナビシソウの花畑～

三郷のくらしを見つめて流れ続ける江戸川と新しくできた船着場、そしてサイクリングロードや野草広場など、江戸川交流拠点は大きな可能性を秘めた三郷の資源といえます。この資源を最大限に活かし、“ひとをつなぐ”交流の場となるような拠点形成を目指しています。

最初の事業として、河川敷を利用したハナビシソウの花畑を整備しています。川風にゆれるオレンジ色と春の青空、そのコントラストを楽しみながら、江戸川散策で三郷を再発見してみませんか。(花畑期間:5月中旬まで)

※花畑一日ボランティアを8ページで募集しています。



寒さにはげず生育中